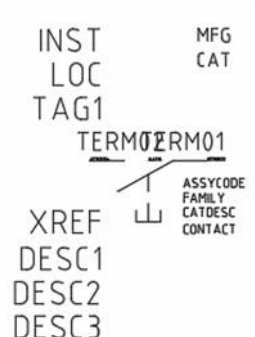


回路シンボルを作成する前に準備すること！

	回路シンボルには様々な制約がありますので、作成前に準備しておくことと効率良くシンボル作成が可能です。 登録するシンボルの一覧表を作成し、そこに必要な情報をすべて書き込んでおくことをお勧めします。 例えば登録名称などはその場で考えるのではなく、他の設計者と相談してライブラリの整備を行っていきましょう。シンボル名でどのようなシンボルかわかるのが理想ですが、日本語は推奨していません。
---	---

① 画層

基本的にはすべて 0 画層に登録します。シンボル挿入時に Electrical が自動で画層を分けて挿入してくれます。形状も属性も 0 画層を推奨します。

② 文字スタイルと文字高さ(属性文字)

属性の文字スタイル、文字高さは事前に統一しましょう。表示非表示も重要です。シンボルビルダを使用するなら、事前に文字として配置しておけば変換することが可能です。

③ 形状

その場で作成するのではなく事前に用意します。ポリラインではなく線分と円弧を推奨します。線種は自由ですが尺度に気を付けましょう。

④ シンボル種別

電気的な種別、カタログデータベースの参照テーブル名です。例えば押しボタンなら PB になります。これも統一が必要です。

⑤ 必要な属性と位置

全てのシンボルに必要な属性とオプション属性を決めておきましょう。例えばクロスリファレンス属性は不要な場合が有ります。

属性の配置位置も統一しておくことと見やすい図面を作成することができます。

⑥ 接続点

配線の接続位置です。特殊な属性を配置することで配線方向を決定し、配線カットを自動的に行うことができます。

アース端子など忘れてしまうと使用できなくなりますので登録前に確認します。

⑦ 登録名称

全体で 32 バイト以内となります。英数字を強く推奨します。可能であれば名称でどのようなシンボルか判断できればベストです。例えば照光押しボタンスイッチのレンズ赤であれば、HPB11_LT_R などはいかがでしょうか。

事前準備をすることで、他の設計者と手分けをして作成しましょう。